

An aerial photograph of a scenic landscape in Kaneyama, Japan. A large, calm lake with a greenish-blue hue occupies the center, reflecting the sky and surrounding greenery. A small village with colorful houses is situated on a peninsula in the middle of the lake. The background is dominated by lush, forested mountains under a blue sky with scattered white clouds. The overall scene is peaceful and picturesque.

KANEYAMA  
FACE

# かねやま

かねやまは、みんなが主役！

金山町勢要覧2021

Kaneyama Town Handbook

# 美しき日本の 原風景と 金山の誇りを 未来に伝える。



金山町長 押部 源二郎

福島県の西部、奥会津と呼ばれる地域に位置する金山町。

1000m級の緑豊かな山々に囲まれ、北部には新潟県に境を接する越後山脈の急峻な山並みが広がっています。町の中央部には尾瀬を源流とする只見川がゆったりと流れ、四季の移ろいを水鏡に映し出します。町の東部には県内唯一のヒメマスの生息地である沼沢湖が、四季折々に神秘的な表情を見せてくれます。全国的にも珍しい天然炭酸温泉をはじめ、様々な泉質の温泉が点在するほか、町の特産品である赤カボチャや天然炭酸水、絶景の秘境路線として知られるJR只見線を目当てに国内外から多く

町民の意見を尊重し、  
町の発展に尽くしていきます。



教育長  
滝沢 敬樹



副町長  
寺島 由悟



副議長  
黒川 廣志



議長  
五ノ井 義一

## 位置

町のデータ	位置	東経139度31分 北緯37度27分
	面積	293.92平方キロメートル
	人口	1,913人(2021年1月1日現在)
	世帯数	1,028世帯(2021年1月1日現在)

かねやまは、みんなが主役!

**金山町公式キャラクター「かぼまる」**

金山町特産品「奥会津金山赤カボチャ」の妖精。人の集まるところが大好きで、頭が赤カボチャ、リボンは天然炭酸水、体は町の温泉を表しています。好きなものは、赤カボチャ、炭酸水、温泉です。



のファンが訪れるなど、たくさんの魅力にあふれています。

金山町の歴史は古く、町内のあちこちから縄文時代中期の土器が数多く出土しているほか、中世には会津四家のひとつである山ノ内一族が町内に7つの城を築城。江戸時代には幕府が直接管理する領地「南山御蔵入地」となり、その一角を担う「御蔵入の民」ならではの誇り高い生活文化を受け継いできた地域です。

美しい日本の原風景、そして、金山の誇りを未来に伝えていくため、町民の皆様と手を携えながら、「自然の恵みと笑顔あふれるまちづくり」を進めてまいります。

本誌をご覧いただき、是非、金山町に足をお運びください。



人、自然、伝統  
 かねやまは、  
 みんなが主役  
 KANEYAMA  
 FACE





かねやまには、地元を愛し、地元根付き、まちの宝物を生み出し続けている人々がたくさんいます。住民ひとりひとりが町の主役、町の“顔”となり、金山町の魅力を形づくっています。

さらには、寒暖差の激しい金山の気候だからこそ見られる神秘的な風景や生き物たち、古くから受け継がれてきた伝統、地元の農家や職人が手塩にかけて作り上げた名産品の数々もまた、金山町の“顔”であり、長い歴史の中で生み出されてきた宝物です。

本誌では“かねやまFACE”をテーマに、金山町の顔として活躍している人々や大自然の四季折々の表情、魅力の数々をつづります。





## 大自然に囲まれながら 豊かな心を育む

保育料無料や教育プログラムの充実など、子育て世代へのサポートが揃う金山町。子どもの数は多くはありませんが、周りの人々が地域の子としてなにかと気にかけてくれる、支えあいの風土が根付いています。

ふたりのお子さんを育てている上指花緒里さんは、子どもがのびのびと自然に触れられる環境が魅力だといいます。「同世代の家族同士で芋掘り体験に行ったり、沼沢湖でキャンプをしたり…冬には雪遊びもできて、四季を肌で感じながらいっぱい遊んで学べる環境です。親子で毎日温泉に入れるのも金山ならではの嬉しいところですね。」

お子さんには出来るだけ自然のものを使って遊びや知育をしていきたいと話す上指さん。大自然が豊かな心を育む、かねやまの子育て環境です。

### Interview



上指 花緒里 さん

会津若松市出身。金山町に両親の実家があり、のちにご自身も金山町に移住。現在はご主人とふたりのお子さんの4人家族で、金山町観光物産協会に勤めながら子育て中。「満1歳から保育園に入れるので、働きながら子育てしやすい環境です」



### もっと知りたい! かねやまの子育て

#### 金山ならではの教育プログラム

教育費のサポート体制に加え、教育プログラムも充実している金山町。保育所での読み聞かせや小中学校の森林教室など、学校間や地域で連携し、まちなちの自然や文化を活かした授業でふるさとの未来を担う子どもたちを育てます。



#### 奥会津金山学びの18年

金山町では、「かねやまの子どもたちは大切な宝」という共通の思いのもと、保育所から小・中・高の18年間にわたる子育て・就学支援を行っています。「保育料無料」「小中学生給食費・教材費等無料」「川口高校生への支援」など、手厚いサポートが揃っています。





## 心と体の健康をつくる 「からだ楽々教室」

町民の65歳以上の割合が59・8%と、県内でも高齢化率が高い金山町。「健康長寿のまち」を目指して、様々な取組が行われています。

「からだ楽々教室」もそのひとつ。町内の2会場で月1回ずつ開催されています。保健師による健康チェックの後、インストラクターの先生と一緒に手足の運動や柔軟体操で体をほぐしていきます。

「参加者は高齢者の方が多いですが、皆さんすごく元気です。体操のメニューは自宅でもできるように作られているので、覚えて帰って、家で続けてくれる方が沢山います」と保健師の阿部さん。

運動の後の、先生や参加者同士のお喋りも楽しみのひとつ。休憩時間には皆さんの笑顔がなります。

### Interview



阿部 みずほ さん

金山町の行政保健師として、町民検診や保健指導など、町民の健康を支える。からだ楽々教室では参加者の健康チェックや相談にも対応。「今の参加者層は高齢の方が多いので、次の世代、その次の世代へと、からだ楽々教室の良さを伝えていきたいです」



### もっと知りたい! かねやまの健康長寿

#### いきいき生活倶楽部で心身ともに健康に

健康づくり活動のひとつ、「いきいき生活倶楽部」では、椅子に座ってできる体操や、介護予防指導、創作活動などを行っています。定期的を外に出て人とふれあうことで心の健康を保ち、介護予防や閉じこもりの防止にもつながります。



#### 認知症相談・情報交換カフェ(ほっとカフェ)

認知症の方やその家族が専門職や地域の人々と集い、情報交換や交流ができる場です。食事をしながらのおしゃべりやレクリエーション、専門職による講演・相談など、支えあいの環境づくりに取り組んでいます。



## 五〇年前の景色が蘇る 「霧幻峡の渡し」

只見川の川面をゆっくりと漂う川霧。その中をすべるように進む一艘の手漕ぎ舟。今や町を代表する観光スポットとなった、「霧幻峡の渡し」です。

その歴史は古く、かつてこの地で300年以上続いた三更という集落では、住民の足として手漕ぎの渡し舟が往来していました。昭和39年、裏山の硫黄鉱山跡の崩落によって一度は途絶えてしまいましたが、星賢孝さんを中心とした地元住民の手で、2010年に渡し舟の運行を復活させました。

「金山にしかない景観の魅力と舟文化を、観光に生かしたいと思いました。特に夏の川霧と冬の雪景色。四季のすべてがこんなにも綺麗なものは、日本中を探してもなかなか無い!」と星さん。

今では国内外から大勢の観光客が訪れ、四季折々の絶景を楽しんでいます。

### Interview



星 賢孝 さん

渡し舟の復活を掲げた「霧幻峡プロジェクト」の中心として活動し、船頭として舟を出すことも。奥会津郷土写真家として、奥会津の風景と只見線を長年にわたって撮影。観光誘客のPR活動を精力的に行い、写真展や講演会は国内外で大きな話題を呼んでいる。

## + もっと知りたい! かねやまの観光

### 奥会津の大地で生まれた天然炭酸水

金山町には、この町でしか見られない貴重な観光資源が沢山あります。大塩地区の炭酸湯もそのひとつ。国内でも珍しい、天然の炭酸水がこんこんと湧き出しています。自然豊かな金山の地で生まれた名水です。



### 天然炭酸温泉 せせらぎ荘

全国的にも珍しい「天然サイダー温泉」が楽しめる日帰り温泉施設です。炭酸ガスが含まれたお湯は、冷え性や肩こりに効き、美肌効果も抜群。飲用も可能で、消化器症状の改善や糖尿病・痛風の予防などの効果が期待されています。







## 鮮やかに実る

### 「奥会津金山赤カボチャ®」

夏の終わり、町のあちこちに現れる鮮やかなオレンジのトンネル。金山町が誇る、奥会津金山赤カボチャ®の畑です。金山産の赤カボチャは、濃い橙色とお尻にある大きな「へそ」が特徴。甘くてホクホク、あんこのような上品な舌触りは、朝晩の寒暖差が激しい金山の土地だからこそ生まれるふるさとの味です。吊り下げて栽培することで、色形の良カボチャが育ちます。

「4月に種をまいて、収穫は8月下旬頃。夏場になると苗から脇芽が出て、こまめに切らないとすぐ伸びて栄養が分散してしまうので、毎日気が抜けないです」そう話すのは、赤カボチャ農家の角田二郎さん。手間がかかるからこそ、収穫の喜びもひとしお。実りの秋の訪れを告げる、金山町の特産品です。

#### Interview



角田 二郎 さん

奥会津金山赤カボチャ生産者協議会会員。2013年から赤カボチャの生産を始め、種まきの時期や肥料の量など、毎年の記録をつけながら改良を重ねている。「自然が相手で分からないことも多いけど、毎年の経験を活かしながら美味しいカボチャを作っていきたいです」



### もっと知りたい! かねやまの産業

#### 清らかな水が育むヒメマス

金山町ならではの産品がもうひとつ。沼沢湖に生息するヒメマスです。冷たく清らかな水に棲む魚で、県内では沼沢湖が唯一の生息地。毎年、沼沢漁業協同組合の方たちが育てた稚魚を、地元の小学生たちが放流しています。



#### 高品質な赤カボチャを届けるために

赤カボチャの栽培技術向上のため設立された奥会津金山赤カボチャ生産者協議会。勉強会や品質検査など、ブランド化への取組を進め、平成30年に地域団体商標を獲得。「奥会津金山赤カボチャ®」の名前で県内外にファンを増やしています。





## かねやまで理想の 生き方を実現

大自然に抱かれ、四季の彩りが美しい金山町。その環境に惹かれ、町外から移り住む人も増えていきます。

2016年に金山町へ移住した老沼さん一家。旅が好きで、これまでに日本列島を3周、外国も巡った中、一番気に入ったという奥会津への移住を決意。築100年になる古民家を自分たちで修繕し、自給自足の生活をはじめました。

「金山の生活は、毎日が楽しいです。田んぼも畑も、湧き水もあるし、源泉掛け流しの温泉に毎日入れます。欲しいなあと思ったものは、不思議と良いタイミングで地域の人や友人から譲って貰えるんです。ここは自分にとっては何でも揃う場所です」と笑顔で話す老沼さん。自然と共に生きる、豊かな暮らし方がそこにはありました。

### Interview



老沼 潤 さん

東京都出身。2016年に金山町へ移住し、現在は奥様と息子さんとの3人暮らし。田畑を耕して自給自足の生活を送る。田舎暮らしをしたいと訪ねてくる友人も多く、「今後は民泊もやれたらいいなあと思っています」と話す。



### もっと知りたい! かねやまの移住定住

#### 人と町の出会いの場

近年、田舎暮らしのニーズが高まりを見せており、金山町でもUIターン希望者との出会いの機会を積極的に作っています。移住定住イベントへの出展や、相談会の開催、空き家バンクの整備などを行い、新しい仲間づくりを進めます。



#### 金山での新生活を後押し

金山町では空き家・住宅改修への補助、結婚・出産祝金の支給、遠距離通勤者や住宅賃貸者への助成など、経済的な支援体制が整っています。官民が連携して、町での新しい暮らしを後押しします。





## 先人の知恵と職人の 技が光るマタタビ細工

冬の手仕事として受け継がれて来た伝統工芸品、マタタビ細工。山に自生するマタタビを収穫し、割いてヒゴの状態にしたものを編み込んで作られます。

金山町で作られるマタタビ細工は、緻密な計算に基づいた、繊細で美しい編み込みが特徴。とても手間がかかりますが、完成したものは丈夫で軽く、使い込むほどに味が増してゆきます。

この技を後世に伝えるため、「ものづくり講習会」で多くの受講生に技術を教えている菅家哲夫さん。「受講生の皆さんには、作る楽しみ、売る楽しみを知ってもらいながら、裾野を広げていきたいです。伝統を残していくための架け橋になれたらと思います」と話します。

先人の知恵と職人の技が光る、かねやまの伝統工芸品です。

### Interview



菅家 哲夫 さん

金山町出身。平成20年からマタタビ細工の制作を始め、農業を営む傍ら、金山町民芸品創作研究会の事務局を務める。平成23年、日本民藝館展に出展したマタタビ深苳が奨励賞を受賞。その他マタタビ細工による受賞歴多数。

## + もっと知りたい! かねやまの伝統

### 地元住民で守り続ける、山入歌舞伎

今から250年程前の江戸時代に始まったとされる伝統芝居、山入歌舞伎。一度は途絶えたものの、地元の近隣会の方々の手で平成2年に復活。毎年9月の「山入近隣会芸能発表会」では本格的な歌舞伎が演じられます。

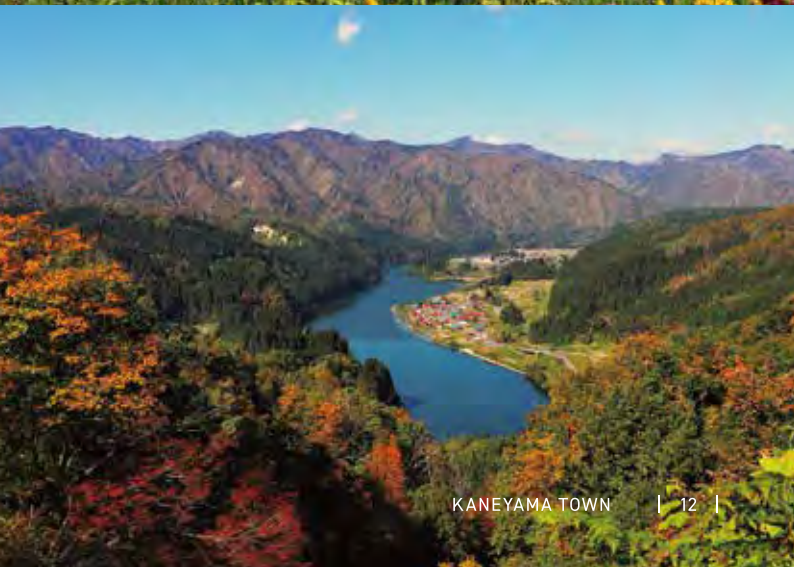


### 冬の風物詩、歳の神

地区ごとの伝統行事も、住民の手で受け継がれてきました。1月の夜に行われる歳の神は、歳徳神を迎えるための火まつりです。この火に当たると病気にならないという言い伝えも。古くから続く、かねやまの冬の風物詩です。



# 春 夏 秋 冬



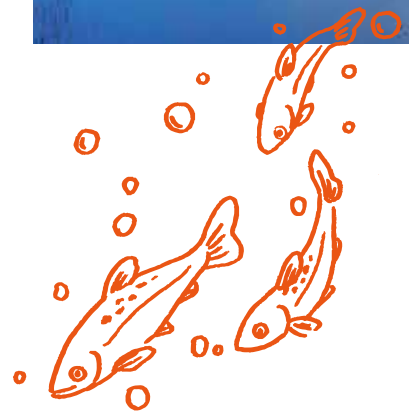


## 大自然と人々の営みが 織りなす四季の表情

金山町は日本海型の気候であり、県内有数の豪雪地帯だからこそ生まれる絶景も数多くあります。

長い冬を乗り越えた小さな命が一気に咲きほころび、生き物の躍動とともに輝き出す春。青々とした山の色を映す只見川に、白いペールのような川霧がゆったりと漂う夏。町を囲む山々が一気に色づき、錦絵の風景に染まる秋。しんしんと雪が降り積もり、山の木々が雪華をまとうって白銀に輝く冬。只見川が水鏡となつて、幻想的な風景を静かに映し出します。

そして、刻々と表情を変える大自然の中を、只見線がコトコトと走ってゆきます。日本の原風景を今に伝える、金山町の四季です。



### JR 只見線

福島県の会津若松駅と新潟県の小出駅を結ぶ全長約135kmの路線。全国でも屈指の秘境路線として、国内外から多くの観光客が訪れます。2011年7月に発生した新潟・福島豪雨により、会津川口・只見駅間が不通となっていましたが、只見線を復旧したいという地元の強い思いが実を結び、2022年中の運行再開に向け、復旧工事が進められています。



# 観光名所

見て、遊んで、癒されて。

一度は訪れてほしい「かねやまの名所」

四季を通じて様々な表情を見せるかねやまの自然。その中に溶け込むように、観光名所が町のあちろちろに点在しています。大自然が織りなす壮麗なビュースポット、伝説を今に伝える伝統行事、心身ともに癒される温泉。金山町に訪れた際には是非立ち寄ってほしい名所の数々です。



## 太郎布高原

標高約600メートルの太郎布高原。ここは全国でも金山町にしか咲かないアザキ大根の自生地、5月中旬から6月上旬にかけて薄紫の花が絨毯のように咲き乱れます。



## 鮭立の磨崖仏

会津地方で唯一と言われる、自然の岸壁に彫られた摩崖仏。天明の飢饉以降、修験者が天災や疫病の退散、五穀豊穡を祈って、数十年にわたって制作されたと推定され、大小50体ほどの様々な仏像が彫刻された神秘的な光景が見られます。



## 滝沢川おう穴群

只見川の支流・滝沢川の渓谷で見られるおう穴群。川床の岩を水流にのった小石が深く削り、大小さまざまな穴が連なる岩の回廊をつくり出しています。



## 沼沢湖

数十万年前から続く火山活動によって生まれた二重カルデラ湖で、水深96メートルの深さと極めて高い透明度を誇ります。この湖には大蛇伝説が伝わり、毎年8月には大蛇退治を再現した湖水まつりが開かれます。



## 玉梨牧場のシラカバ自然林

白い幹が立ち並ぶ、美しいロケーションのシラカバ自然林。「ふくしま緑の百景」に選ばれています。おおらかな自然の息吹が感じられる癒しの空間です。



## 本名御神楽岳

新潟県との県境に位置する本名御神楽岳。標高1,266メートルの山頂からは周囲の山々が一望できます。毎年6月には山開きが行われ、トレッキングや沢登りが楽しめます。



### 奥会津金山 天然炭酸の水

古くから源泉として親しまれ、明治時代には海外に輸出されていたという歴史ある炭酸水です。微炭酸のまろやかな口当たりはまさに自然の恵み。飲料だけでなく、天然炭酸水を贅沢に使用したスキンケア化粧品なども開発されています。



### エゴマ加工品

金山町の豊かな自然の中で丹精込めて栽培されたエゴマを使用した、自然由来の商品です。エゴマに含まれるαリノレン酸は様々な生活習慣病を防ぐ効果があると言われ、健康食品として注目を集めています。

かねやまは、みんなが主役! KANEYAMA <FACE>

# 特産品

## 大自然の恵みと惜しめない手仕事が生み出す「かねやまの名産品」

金山町ならではの気候と豊かな自然、そして地元の人々の丁寧な手仕事によって作り上げられた、ここでしか出会えない名産品の数々。地元農産物を使った商品開発やブランド化などの取組も積極的に行われ、かねやまの“顔”となって町内外の人々に親しまれています。



### マタタビ細工

米とぎザルやそばザルなど、職人の手によってひとつひとつ丁寧に作られています。使い込むほどに色の深みも増し、工芸品としての美しさも感じられます。



### 赤カボチャ加工品

8月中旬から9月下旬の約1ヶ月間だけ店頭に並ぶ奥会津金山赤カボチャ。煮物で食べるのもおすすめですが、赤カボチャ特有の甘みと上品な舌触りはお菓子にもぴったり。羊羹やどら焼きなどの商品はお土産に人気です。



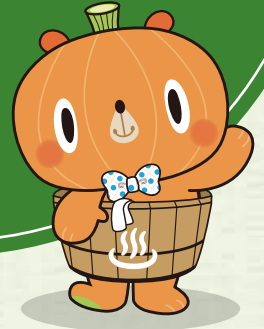
### 姫ます寿司

奥会津  
金山赤カボチャ  
(金山町登録商標)



# 金山町ガイドマップ GUIDE MAP

総面積のうち90パーセントは森林地帯で、町の中央部を只見川が流れ、その流れに沿って大小30の地区が集まっています。町の歴史は古く、縄文時代の土器や江戸時代の道祖神など、貴重な文化財があちこちに残っています。自然豊かな金山町ならではのレジャースポットも見どころです。



かねやまは、みんなが主役! KANEYAMA FACE



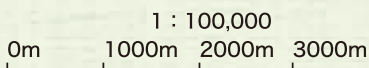
宮崎聖観音坐像



小栗山の道祖神



旧五十島家住宅







道の駅奥会津かねやま



妖精美術館



フェアリーランドかねやま  
スキー場



大塩天然炭酸水

かねやまは、みんなが主役! KANEYAMA FACE

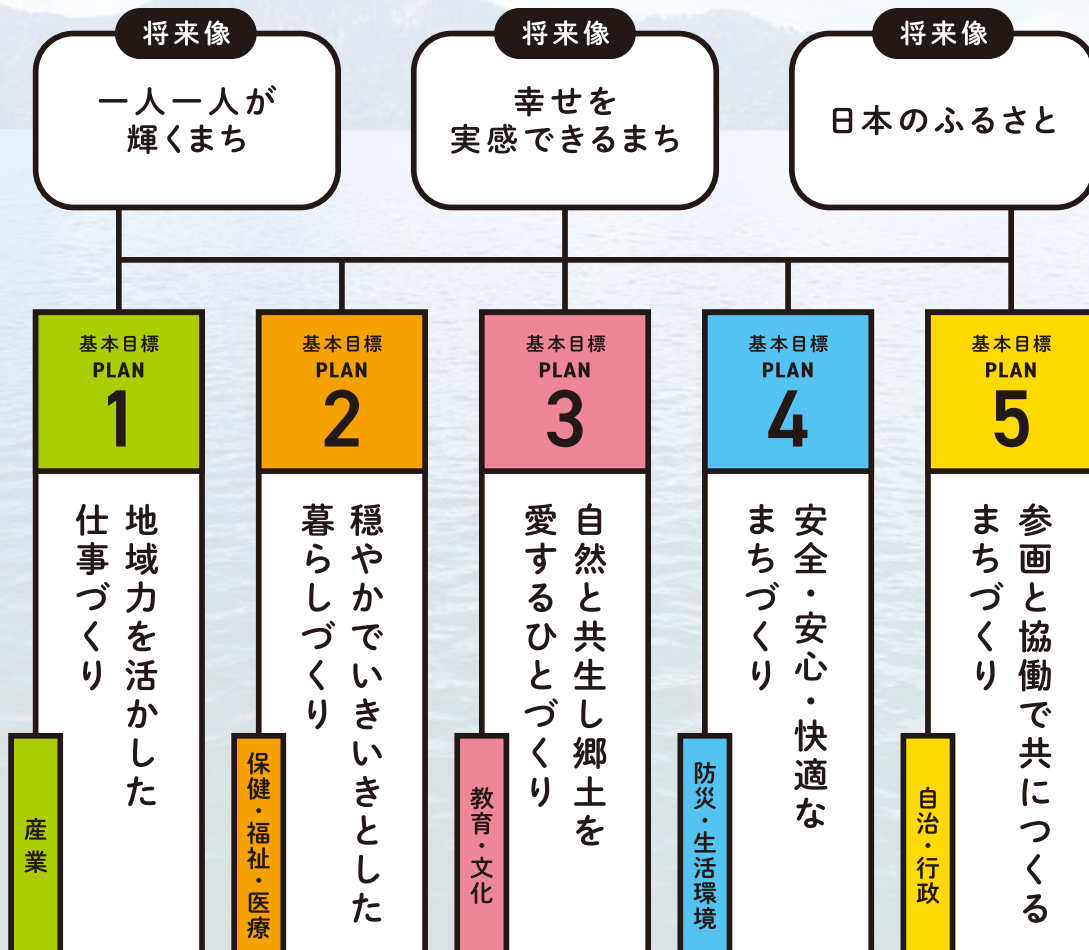


# 第五次金山町総合計画

## 自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま ～ 思いやり 支えあいのまち ～

物質的な豊かさがあっても、そこに突然の大きな社会的変化や先の見えない不安がつきまとう時代の中で、「本当の幸せは身近なものの中にある」という考えから、3つの将来像を掲げました。物資の豊かさを求める価値観から、精神の豊かさを求める価値観への転換を図り、持続可能な地域社会の実現を目指します。

金山町には、美しく豊かな自然、住民同士が支え合う風土、のどかな雰囲気など、都市部では手に入らない宝物がたくさんあります。これらの将来像を実現するため、わたしたちは『自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま』をまちづくりの合言葉（キャッチフレーズ）に住民同士がお互いを思いやり、支えあいながら、金山町ならではの幸せを追求し、町民一人一人が幸せを実感できる町を目指します。



PLAN  
1

地域力を活かした  
仕事づくり



KANEYAMA

産業

農業従事者の高齢化による労働力の減少が進み、町農業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。また、近年は消費者ニーズの多様化や過疎化により、本町の商業も深刻な影響を受けています。今後、特定地域づくり事業協同組合制度等を活用し、担い手の育成・確保に努めるとともに、新規就農者・起業者が活動しやすい環境を整備します。また、次世代のまちづくりを担う若者の職業的自立に必要な知能・技能の習得を支援し、就労促進や働きやすい環境を整備します。そのほか、ブランド力の強化や、農林漁業者の所得向上のため、農産物加工所を有効に活用した6次産業化を積極的に進めていきます。

令和4年度にJR只見線の全線復旧が予定され、観光路線としての利活用が大いに期待されます。只見線ビュースポット、大塩炭酸温泉、霧幻峡の渡し等、金山町の魅力を活かした観光地づくりと交流人口の増加に努めます。



担い手の育成・確保

農業従事者に対する各種補助事業を引き続き充実させます。移住・定住に関連させ、新規就農の促進を図ります。



6次産業化の推進

地域で生産された農産物の高付加価値化を促進するため、外部の専門家等と協力し、売れる6次化商品づくりに取り組みます。



交流人口の拡大

只見線復旧に向けて、沿線の景観を良好にするとともに、レンタサイクル事業等により、町内への観光誘客につなげます。

穏やかでいきいきとした  
暮らしづくり

KANEYAMA

保健・福祉・医療



高齢者世帯、障がいのある方、子育て世帯など、日常生活において支援を必要とする住民が、住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせるように、福祉体制を充実させることが必要です。

高齢者が心も体も健康に暮らし続けるため、介護予防事業や健康寿命を延ばす取組の定着を図っていきます。さらに、高齢者が生き甲斐を持ち社会参加できるような活動の支援や、経験や技能を活かして活躍できる場所の確保に努めます。そのほか、外出支援サービスや買い物支援、高齢者世帯の見守り体制を充実させることで、安心して生活できる環境を整備します。

また、子育てしやすい環境づくりや経済的支援を充実させることで、安心して子育てができる地域環境をつくり、「日本一の子育て支援のまち」を目指します。



健康づくりの推進

総合健診や各種検診を推進し、生活習慣病の早期発見・治療を図ります。また、健康管理意識を高め、感染症予防対策に取り組みます。



児童福祉の充実

安心して子どもを産み育てることができるよう、地域全体で子育てを応援していく取組が重要です。



高齢者福祉の充実

老人クラブなどの活動や世代間交流を支援し、高齢者が地域から孤立しないよう社会参加を促します。

PLAN  
3

自然と共生し郷土を  
愛するひとづくり



KANEYAMA

教育・文化

金山の宝である美しく豊かな自然、住民同士が支えあう風土などを将来へと繋げていくためには、一人一人が郷土を愛する心を持つことが大切です。学校と地域が連携して学びの場を形成し、交流機会を創出することで、将来を担う子どもたちの意識づくりにつなげます。

本町では、子どもたちの成長を支援する「奥会津金山学びの18年」を実施しています。保育料無料、小中学校の給食費・教材費等無料、川口高校生への様々な支援等を継続して行うことで、子育て・教育を支援します。

また、町内に残る貴重な文化財、地域の伝統を大切に守り、次世代に継承していく必要があります。後継者育成のほか、文化財保管施設整備に取り組み、文化財の保護・管理に努めます。



次世代につなぐ伝統文化

文化協会や公民館と連携し、講演会や文化祭、芸能発表会を開催することで、住民が文化芸術に触れ、活動する機会を提供します。



生涯学習の充実

住民の生涯学習への意識を高め、幅広い年代に参加を促すとともに、自主的な活動が出来るよう支援します。



生涯スポーツ活動の充実

町民がスポーツに親しみ、活動する機会を提供し、健康の増進と生涯にわたる生き甲斐づくりにつなげます。

安全・安心・快適な  
まちづくり

KANEYAMA

防災・生活環境



本町では、住民の防災意識の向上や災害情報の伝達の充実、避難場所の指定・周知、治山治水対策の推進をはじめ、災害に備えた各種の防災・減災対策を進めてきました。今後は、防災マップの更新や河川の整備、急傾斜地の崩落防止などに取り組み、地域の防災・減災体制の強化、災害に強い強靱なまちづくりを推進します。

消防・救急体制については、消防団員数が年々減少しており、団員の確保が求められているほか、老朽化が進む施設・設備の更新が必要な状況です。また、広域的な連携のもと、体制の充実を図ります。そのほか、防犯体制の強化のため、公共施設に防犯カメラを設置し、町民の安全・安心を確保します。

道路・水道等のインフラ整備や、住環境の整備を計画的に進め、快適に暮らせるまちをつくりまします。



空き家利活用の促進

空き家バンク事業の充実を図りながら、移住・定住者の住まいや企業の受け皿として、空き家の利活用を進めます。



道路の整備充実

全ての世帯が冬期間安心して暮らせるよう、県や委託業者との連携を強化し、除雪体制の整備に努めます。



防災体制・治山治水対策の充実

複数のシステムを利用した災害情報伝達体制の維持・充実に努めます。また、適切な避難指示・避難誘導体制の確立を図ります。

PLAN  
5

まちづくり  
参画と協働で共に  
つくる

KANEYAMA

自治・行政



本町では、「町民が主役のまちづくり」を進めるため、協働による地域づくりや行政サービスの向上に取り組んできました。今後も、職員地区担当制や町づくり懇談会の定期開催を継続して行うほか、各種委員会や審議会において、住民が参画する機会づくりに努めます。

また、本町には30の行政区があり、各地区集会所などを拠点としてそれぞれが会議や行事などの地区活動を行っていますが、人口の減少と高齢化の進行などにより、地域集落の維持が課題になっています。集落内除雪・維持活動に対するボランティアの受入、移住定住の促進、集落内施設の整備を進めることで、集落の維持・活性化を図ります。

行政情報を積極的に公開・提供し、住民と行政との情報の共有化を図るため、「広報かねやま」やホームページ、SNSによる情報発信を充実させます。



住民参画の確立

各地区でまちづくり懇談会を開催し、住民の意見を町政に反映させます。各種委員会や審議会において、住民が参画する機会づくりに努めます。



協働推進体制の確立

町民と行政がお互いに協力し合いながら町の課題解決に取り組む、協働によるまちづくりを進めます。



集落の維持・整備

集落での活動に対し、ボランティアの受入などの支援を積極的に行い、集落の維持、活性化を図ります。

# 金山町の歩み

KANEYAMA TOWN

## HISTORY



1955

1960

- 1955年(昭和30年)
  - 3月 沼沢・川口・本名・横田の4ヶ村が合併し金山村となる
  - 4月 渡邊利一郎氏初代町長に就任
  - 9月 金山村公民館創設
  - 10月 国勢調査実施、人口9,555人
  - 12月 議会議員選挙が執行され、22人の村会議員が誕生
- 1956年(昭和31年)
  - 4月 大志地区中学校・橋立地区小学校の学区変更
  - 9月 地方財政再建団体に指定
  - 9月 国鉄会津線(現只見線)川口まで開通
- 1957年(昭和32年)
  - 3月 金山村農業協同組合発足
  - 4月 西谷地区小学校・橋立地区中学校の学区変更
- 1958年(昭和33年)
  - 4月 町制施行により金山町となる
- 1959年(昭和34年)
  - 4月 太郎布地区中学校・山中地区小中学校の学区変更
  - 8月 渡部文衛町長就任
  - 8月 川口・田島間・横田・布沢間、小栗山・宮下間の道路が県道に編入
  - 横田鉱山操業開始
- 1960年(昭和35年)
  - 10月 国勢調査人口10,119人となる
- 1961年(昭和36年)
  - 1月 県立川口高校校舎新築落成
  - 12月 滝発電所完成
- 1962年(昭和37年)
  - 1月 金山町商工会発足
  - 4月 地方財政再建団体の指定解除
  - 中川地区中学校の学区変更
- 1963年(昭和38年)
  - 4月 各旧村に公民館設置
  - 三更地区で山崩れ頻発し、秋までに民家7戸移転
  - 8月 川口・只見間の資材運搬線が国鉄只見線として営業開始
- 1964年(昭和39年)
  - 4月 沼沢・横田両支所廃止

1975

- 1972年(昭和47年)
  - 3月 農業構造改善事業のパイロット地区に指定
  - 横田鉱山休山
  - 9月 新国縫製工場西部で操業開始
  - 町内で初の百歳者誕生
  - 10月 横田中学校体育館完成
  - 11月 金山町観光協会設立
- 1973年(昭和48年)
  - 1月 中川に広域消防出張所設置
  - 3月 金山町振興計画策定
  - 5月 スクールバス運行開始
  - 8月 沼沢湖水まつり開始
  - 8月 水沼に共同被服株式会社会津工場操業開始
  - 9月 国道252号全線開通
  - 田代鉱山閉鎖
  - 11月 滝沢に日本大理石株式会社金山工場操業開始
  - 12月 川口局電話完全自動化
  - 湯倉橋完成
  - 小栗山に奥只見国際スキー場オープン
  - 民宿16軒開業
  - 沼沢湖周辺が自然休養村に指定
- 1974年(昭和49年)
  - 2月 国民保養センター「せせらぎ荘」オープン
  - 3月 国道252号で土砂崩れ事故発生町民3人死亡、1人重傷
  - 「金山町史」上巻発刊
  - 10月 国鉄只見線の蒸気機関車廃止
- 1975年(昭和50年)
  - 3月 金山町森林組合が沼沼西部森林組合に合併
  - 4月 長谷川源太郎町長再選
  - 10月 只見川電源開発の後遺症を解決するため東北電力と協定締結
- 1976年(昭和51年)
  - 3月 「金山町史」下巻発刊
  - 4月 過疎地域に指定される
  - 8月 町の木、花、鳥選定
  - 9月 開発センターが開館し合併20周年記念式典記念行事実施
- 1977年(昭和52年)
  - 4月 川口小・玉梨小が統合し川口小学校となる
  - 横田小・山入分校・大塩小が統合し横田小学校となる
  - 沼沢に自然休養村センターオープン
  - 6月 第二沼沢発電所工事着工
  - 11月 川口に商工会館開設
  - 早三橋が完成
  - スキー場にジャンプ台建設
- 1978年(昭和53年)
  - 4月 沼沢・川口両中学校が統合し第一中学校となる。新校舎も完成
  - 旧五十島家住宅が県の重要文化財に指定
  - 中川に民俗資料館完成



1982年 役場新庁舎の完成



1976年 開発センターが開館し合併20周年記念式典記念行事実施



1974年 国民保養センター「せせらぎ荘」オープン





1973年 民宿16軒開業



1969年 未曾有の集中豪雨災害発生



1965年 合併10周年記念式典

## 1970

- 12月 川口中学校寄宿舎完成
- 11月 横田鉱山休山発表  
町議会議員定数18人となり初の改選  
地域集団電話開通(555台)
- 8月 会津若松・小出間が国鉄只見線として全線開通
- 4月 長谷川源太郎町長就任
- 4月 鉱山廃液による公害問題発生
- 9月 町の祭礼日9月5日に統一
- 10月 田代鉱山操業開始
- 12月 大岐8戸が横田に、沼ノ又10戸が大塩に集落移転

### 1970年(昭和45年)

- 8月 福島テレビ西金山中継局開局  
診療所に歯科開設
- 4月 未曾有の集中豪雨災害発生。死者8名  
家屋の全壊流出22棟、水沼橋流出、大岐部落壊滅、災害救助法が適用される
- 12月 雪上車運行開始  
山村振興法指定

### 1969年(昭和44年)

- 4月 横田中学校鉄筋コンクリート校舎完成
- 5月 東京金山会誕生
- 6月 黒鉱開発本格的ボーリング始まる
- 7月 沼沢地区に学生村開設
- 9月 川口駅前の農協ビル開設
- 10月 福島テレビ東金山中継局開局

### 1968年(昭和43年)

- 4月 渡邊利一郎町長就任
- 6月 町営玉梨放牧場開設
- 9月 NHK西金山中継局開局

### 1967年(昭和42年)

- 12月 NHK東金山中継局・金山中継局開局
- 11月 林道上井草橋完成
- 3月 川口に町内初の常設保育所開設

### 1966年(昭和41年)

- 1月 町章制定
- 3月 放送文化都市宣言を行う
- 2月 国鉄只見線に本名・越川・大塩駅が新設
- 3月 只見までの沼田街道が国道252号となる
- 5月 合併10周年記念式典
- 6月 川口小学校体育館落成
- 10月 国鉄只見線に「ダイヤセルカー」準急あいつ号運転

## 1965

- 5月 三更地区ブナ坂が大崩落し、のち分散移転
- 6月 広報かねやま発刊
- 6月 東洋大学生寮「只見川荘」落成
- 7月 川口金洗地区に国保診療所開設

### 1965年(昭和40年)

## 1985

- 11月 滝沢で東京ビジョン福島管理センター操業開始  
診療所の融雪道路完成
- 4月 会津川口駅に金山町農協・川口郵便局を合築した民衆駅が業務開始
- 3月 会津若松・小出間が国鉄只見線として全線開通
- 10月 長谷川恒雄町長就任
- 7月 玉梨小学校を改装した自然教育村会館がオープン
- 4月 上野原農地に作付け開始
- 4月 町民憲章・町民の歌・金山音頭を制定
- 3月 町民体育館完成
- 7月 合併30周年記念式典、行事を実施

### 1986年(昭和61年)

- 1月 中川で東京ビジョン金山精工操業開始
- 5月 新診療所完成 診療開始
- 10月 第1回町民運動会開催

### 1985年(昭和60年)

- 9月 新林業構造改善事業開始
- 4月 第一中学校運動場に夜間照明設備完成

### 1983年(昭和58年)

- 11月 旧沼沢小学校校舎で沼沢湖山荘が営業開始
- 10月 渡部義博町長再任
- 7月 羽生市と友好都市宣言
- 2月 沼沢小学校校舎で沼沢湖山荘が営業開始

### 1982年(昭和57年)

- 4月 県立川口高校の新校舎完成
- 5月 役場新庁舎の完成 業務開始
- 6月 第二沼沢発電所完成
- 10月 第二沼沢発電所の1号機運転開始

### 1981年(昭和56年)

- 4月 水沼小・沼沢小・中川小・川口小が統合し、新築校舎で金山小学校となる
- 6月 県道田島・金山線が国道400号に昇格
- 12月 三集落移転決定
- 6月 診療所歯科休診
- 6月 横田小学校新校舎完成

### 1980年(昭和55年)

- 10月 横田地区の農協ライスセンターが操業開始

### 1979年(昭和54年)

- 9月 大栗山・沼沢間の町道が舗装になる
- 10月 渡部義博町長就任
- 11月 西部橋完成



1986年 玉梨小学校を改装した自然教育村会館がオープン



1986年 上野原農地に作付け開始



1984年 第1回町民運動会開催

# HISTORY

## 金山町の歩み



1992年 大蛇資料館・フィールドアスレチック・妖精の小径がそろってオープン



1989年 老人福祉センターオープン

### 1990

- 1989年(平成元年)
  - 4月 社会福祉法人金山町社会福祉協議会設立
  - 4月 老人福祉センターオープン
  - 8月 社会福祉法人かねやま福祉会設立
- 1990年(平成2年)
  - 4月 中山間地域農村活性化総合整備事業計画の開始
  - 特別養護老人ホーム「かねやまホーム」オープン
  - 株式会社金山製作所操業開始
  - 6月 株式会社金山製作所操業開始
  - 8月 妖精の里づくりを宣言
  - 10月 川口トンネル・川口橋が開通
  - 長谷川恒雄町長無投票で再選

### 1995

- 1991年(平成3年)
  - 4月 防災行政無線が完成
  - 5月 大蛇が完成 8月の湖水まつりに登場
  - 12月 定数14人になった町議会議員選挙は無投票で新議員誕生
- 1992年(平成4年)
  - 4月 活性化センター「こぶし館」開館
  - 5月 大蛇資料館・フィールドアスレチック・妖精の小径がそろってオープン
  - 12月 太郎布にスノーモビルランドが開設
- 1993年(平成5年)
  - 4月 新横田保育所完成
  - 5月・6月 映画「あひるのうたがき」えてくるよ」沼沢湖周辺で撮影
  - 9月 妖精美術館開館
- 1994年(平成6年)
  - 4月 本名小学校が金山小学校に統合される
  - 9月 須田先生が金山町名誉町民に
  - 10月 町内の会津バス3路線の廃止に伴い町営バスの運行開始
  - 長谷川恒雄町長無投票で3選
- 1995年(平成7年)
  - 3月 若者向町営住宅「カッコウハウス」完成
  - 6月 吹上町(現・鴻巣市)と友好都市宣言
  - 12月 町営スキー場オープン
- 1996年(平成8年)
  - 3月 新川口保育所完成
  - 7月 「むつみ生活改善グループ」、全国農業コンクール・名誉賞受賞
  - 9月 会津地方防災訓練が金山町で開催
  - 婦人消防クラブ結成
- 1997年(平成9年)
  - 3月 友好都市と災害時における相互応援協定を締結
  - 8月 妖精美術館の入館者が5万人達成
- 1998年(平成10年)
  - 3月 J A会津みどり誕生

### 2010

- 2006年(平成18年)
  - 8月 広報かねやま500号発行
  - 9月 広報かねやま縮刷版第4巻発行
  - 10月 長谷川律夫町長が就任
  - 11月 グループホームかねやま開所
- 2007年(平成19年)
  - 2月 小栗山地区で大規模な土砂災害発生
  - 9月 国保診療所に歯科開設
  - 11月 定数10人となった町議会議員選挙で新議員が誕生
- 2008年(平成20年)
  - 1月 福島連産百選に「沼沢湖」が認定
  - 3月 山入地区に携帯電話基地局完成
  - (株)会津かねやま設立
  - 6月 天然炭酸水awa心水がモンドセレクションで最高金賞を受賞
  - 7月 金山町ふるさと応援寄付金を募集開始
  - 11月 「杜氏」佐藤壽一さん「現代の名工」受賞
  - 12月 東金山中継局で地上デジタル放送開始
- 2009年(平成21年)
  - 3月 第一中学校・横田中学校が閉校
  - 沼沢・太郎布地区に携帯電話基地局が完成
  - 4月 金山中学校が開校
  - 5月 金山町乗合タクシー運行開始
  - 金山町観光情報センター開設
- 2010年(平成22年)
  - (株)奥会津かねやま大自然設立
  - 3月 奥会津振興センター開所
  - 4月 消防操法大会両沼予選会で2部門優勝
  - 7月 宮崎栗園地跡記念碑と記念誌完成
  - 8月 国道400号暫定開通
  - 9月 長谷川律夫町長無投票で2選
  - 11月 地上デジタル放送金山・西金山局開局
  - 12月 J A会津みどり金山ライスセンターが竣工
- 2011年(平成23年)
  - 金山小学校新体育館完成
  - 3月 かねやまネット供用開始
  - 4月 金山町鳥獣被害防止対策協議会設立
  - 7月 新潟・福島豪雨災害
  - 国道252号二本木橋流失、町道田沢橋西部橋流失 JR只見線4鉄橋流失
  - 国道252号二本木橋流失、町道田沢橋西部住宅被害103棟避難勧告7地区369世帯
  - 自主避難95世帯、災害救助法が適用される
  - 12月 JR只見線会津川口駅まで運行再開
  - 田沢橋・二本木橋仮橋開通
- 2012年(平成24年)
  - 4月 公式ホームページリニューアル
  - 5月 交通事故死亡者ゼロ2000日達成
  - 7月 金山町土地改良区が解散
  - 12月 田沢橋開通



2011年 新潟・福島豪雨災害



2002年 四季彩橋が完成



2002年 芸能伝承館「ふるさとむかし館」が完成



1998年 町営スキー場の太郎布グレンデ及びあすなる館オープン



1994年 町内の(会津バス3路線の廃止に伴い)町営バスの運行開始



1993年 妖精美術館開館

## 2005

- 2005年(平成17年)
  - 3月 金山町合併50周年
  - 川口交換局でADSLが開通
  - 旧上井草橋落橋事故発生、JR只見線一時不通
  - 7月 推名誠写真館オープン
- 2004年(平成16年)
  - 1月 両沼5町村合併協議会発足(9月解散)
  - 7月 豪雨災害により町内各所で土砂崩れ
  - 8月 上井草橋開通
  - 福島県市町村ゲートボール大会で金山町チームが優勝
  - 9月 会津心水株式会社が操業開始
  - 10月 新潟県中越地震発生、町内でも道路陥没など多数の被害
  - 11月 (株)JPHハイテック金山流木再生プラントが操業開始

## 2000

- 2002年(平成14年)
  - 3月 芸能伝承館「ふるさとむかし館」が完成
  - 4月 大沼西部地区3町村合併検討協議会が設立(平成15年3月解散)
  - 6月 田沢地区農業集落排水施設が供用開始
  - 10月 四季彩橋が完成
  - 齋藤勇一町長再選
- 2003年(平成15年)
  - 3月 国道252号西谷橋開通
  - 沼沢漁業協同組合発足
  - 9月 多目的体育施設「御神茶館」完成
  - 11月 定数12人となった町議会議員選挙で新議員が誕生
  - 12月 横田地区で携帯電話使用可能となる
- 2004年(平成16年)
  - 3月 芸能伝承館「ふるさとむかし館」が完成
  - 4月 大沼西部地区3町村合併検討協議会が設立(平成15年3月解散)
  - 6月 田沢地区農業集落排水施設が供用開始
  - 10月 四季彩橋が完成
  - 齋藤勇一町長再選
- 2000年(平成12年)
  - 3月 名誉町民の須田透氏が逝去
  - 町道中川・大栗山線の木冷橋完成
  - 4月 携帯電話(NTTドコモ)使用開始
- 2001年(平成13年)
  - 4月 第3次振興計画がスタート
  - 横田デイサービスセンター(横田出張診療所)が併設開所
  - 8月 上横田の滝沢医院が閉院
  - 10月 JR只見線開通30周年、SL記念運行
  - 横田地区にFM中継局が開局
- 1999年(平成11年)
  - 10月 松坂峠トンネル目指し、横田地区と明和地区の交流会開催
- 1998年(平成10年)
  - 5月 国道252号本名バイパス開通
  - 7月 県立川口高校創立50周年
  - 10月 齋藤勇一町長が就任
  - 12月 町営スキー場の太郎布グレンデ及びあすなる館オープン

## 2020

- 2020年(令和2年)
  - 4月 新型コロナウイルス感染症が全国的にまん延
  - 7月 東北電力奥会津水力館みお里MORIがオープン
  - 12月 防災無線デジタル化改修が完了
  - 会津川口駅前広場無散水消雪開始
  - 定住促進住宅(上横田)完成
- 2019年(令和元年)
  - 3月 金山町定住促進住宅(上横田)が完成
  - 10月 国道252号本名トンネル貫通
  - 12月 県立川口高等学校創立70周年
  - 誕生8人となった町議会議員選挙で新議員が誕生
  - 例年になく浅雪
- 2018年(平成30年)
  - 1月 金山FM補完中継局本放送始まる
  - 5月 金山町多目的共同住宅「上横田共同住宅」が完成
  - 6月 只見線復旧工事起工式
  - 町営クラウンド・ゴルフ場オープン
  - 9月 押部源二郎町長が就任
- 2017年(平成29年)
  - 3月 金山町定住促進住宅(川口)完成
- 2016年(平成28年)
  - 1月 東金山FM補完中継局本放送始まる
  - 3月 JAよつば誕生
  - 9月 金山町温泉保養施設「せせらぎ荘」リニューアルオープン
  - 10月 金山中学校にエレベーター棟を増築
  - 11月 西金山FM補完中継局本放送始まる
- 2015年(平成27年)
  - 1月 交通事故死亡者ゼロ3000日達成
  - 3月 定住促進住宅川口馬場住宅完成
  - 12月 町議会議員選挙8年ぶりに選挙5町による一級河川只見川河川整備促進期成同盟会設立
- 2014年(平成26年)
  - 3月 金山町少子化対策推進条例制定
  - 6月 金山町消防団に総務大臣感謝状
  - 10月 長谷川盛雄町長が就任
  - 12月 広報かねやま600号発行
  - 国道252号滝トンネル開通
- 2013年(平成25年)
  - 3月 かねやまホーム80床増床
  - 4月 道の駅「奥会津かねやま」オープン
  - 8月 川口浄化センター通水
  - 公式キャラクター「かぼまる」誕生
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成

## 2015

- 2015年(平成27年)
  - 1月 交通事故死亡者ゼロ3000日達成
  - 3月 定住促進住宅川口馬場住宅完成
  - 12月 町議会議員選挙8年ぶりに選挙5町による一級河川只見川河川整備促進期成同盟会設立
- 2014年(平成26年)
  - 3月 金山町少子化対策推進条例制定
  - 6月 金山町消防団に総務大臣感謝状
  - 10月 長谷川盛雄町長が就任
  - 12月 広報かねやま600号発行
  - 国道252号滝トンネル開通
- 2013年(平成25年)
  - 3月 かねやまホーム80床増床
  - 4月 道の駅「奥会津かねやま」オープン
  - 8月 川口浄化センター通水
  - 公式キャラクター「かぼまる」誕生
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2012年(平成24年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2011年(平成23年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2010年(平成22年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2009年(平成21年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2008年(平成20年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2007年(平成19年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2006年(平成18年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成
- 2005年(平成17年)
  - 10月 金山町消防団機能別団員(OB隊)結成
  - 12月 国道252号二本木橋開通
  - 西部橋開通
  - 定住促進住宅中川沖根原住宅完成



2020年 東北電力奥会津水力館 みお里 MORI がオープン



2019年 国道252号本名トンネル貫通



2018年 只見線復旧工事起工式

## 金山町章



金山町の「カ」の字を天に、「山」の字を地に  
図案化したもので、町民の和と積極的に町づくりに  
取り組む姿勢を表しています。

(昭和41年3月1日制定)

## 町の木・花・鳥



桐

金山町の特産として生活  
に密着し、厳しい自然の  
中で育ちゆく姿は町の  
発展を象徴しています。



こぶし

純白でかざり気のない  
花は、町の人々のあたた  
かな心のふれあいを表  
わしています。



カッコウ

山あいにこだまするの  
どかな鳴き声は、平和で  
素朴な自然を歌ってい  
ます。

## 金山町民憲章 (昭和60年3月30日制定)

- 一. 自然を愛し、美しい町をつくりましょう
- 一. 健康で、生きがいのある町をつくりましょう
- 一. 教養を高め、文化の町をつくりましょう
- 一. 親切をつくし、豊かな町をつくりましょう
- 一. 決まりを守り、明るい町をつくりましょう

## 金山町勢要覧2021

発行  
福島県 金山町

〒968-0011 福島県大沼郡金山町大字川口字谷地 393

Tel.0241-54-5111 Fax.0241-54-2117

<https://www.town.kaneyama.fukushima.jp/>

令和3年(2021年)3月発行